

一夕醫話

上

✕

i 5-1



少
醫
巫
話

富士川家藏本

獨論孤精粗
畫以在齊字



3冊 (490.4
I5-4
1)

No. 1987
IR i5-1



富士川文庫
648

慶應元乙丑歲

冬十二月刻成



再刻一夕醫話序

隱醫默翁老人袖其所著一夕醫

話以示人。曰。此書之始脫藁也。君

之先府君棠邊先生。寔序之。刻

刷既成。而不幸祝融為祟。印板

倏煨燼矣。未幾先生即去。愚

亦忽嬰子春之疾。偃息數月。比

至今甚。病稍間。乃嘆曰。是我多
年潛精之所手輯。惡忍遽棄
之。況有副本尚存也。於是更繕
寫。再附之李柬。請為序。其梗槩。
嗚呼。先府君沒三年。覽其所
序之書。恍如親接其音容。俾人
悽愴。有山陽聞遂之感焉。况為
之老而益壯。疾疢累旬。而不敢小
屈其素志。使既燒之。書復存。
何以問於世。其精力尚彊。年可嘉
嘆者乎。乃題數字以還之。若夫
其書之卓然。足裨補後學。則
有先府君之序在焉。固不待
余之復述云爾。

之持乎。病之標本。因之。一源
十流。曰。歸。結。澹。如。此。則。其。用。以。為
平。故。曰。人。之。病。之。類。多。隆。正。之。病。之
正。少。曰。正。持。也。古。之。道。也。每。種。
穢。多。不。過。數。百。文。謂。之。約。也。此。約。而
之。家。其。持。之。極。數。隆。正。之。病。之。更
深。未。亦。定。但。考。其。極。數。者。其。恒。以。備
明。隆。正。之。病。之。極。數。以。付。以。示。其

所。是。也。少。隆。正。活。者。請。考。其。事。其。其。只
要。之。為。隆。正。之。賤。唯。以。治。之。求。易。其
持。之。乃。不。復。之。持。之。也。其。其。功。人。持。矣。
恐。之。多。故。止。其。之。矣。則。不。得。不。折
中。之。也。法。也。何。也。其。道。之。使。之。不
致。其。也。為。人。之。命。也。其。持。之。而
反。其。也。其。道。之。道。之。求。其。持。之
其。也。其。用。之。也。其。功。矣。其。其。之。

厚其所以後。予始以古人之為學之遠
之。亟援予家之云。

又久之。予在江陰。始以墨書。而後
之。予家之。予人之。之。信。後。



石言高其陸書



一夕醫話序

物換星移。舊友落落。惟鑿隱默翁。為魯靈光矣。翁少
時遊于桂山先生之門。學問治術。淵源于此。性不樂
榮利。中年隱居。然求治者。武相接也。著述數種。彙行
于世。今復撰一夕醫話。使予序之。蓋一問一答。凡十
有四條。而其大旨。所歸有五焉。闡明長沙之旨。而宋
元以還。搏影捉風之說。并髦而棄之。一也。悟西洋窮
理之非。一一排斥。不遺餘力。而制鍊之劑。珍竒之品。
苟有一効一能。必錄而不遺焉。采葑采菲。無以下體。
二也。凡發泡瀉血。水鏡。棋鍼之類。皆我舊物。何待于

彼世鑿不察。闕然奔波。譬猶不肖子不知祖先之車
服。三也。攝縣施那。殺蟲神驗。翁謂是波斯鶴蟲也。徵
諸本草則吻合矣。四也。物有先兆。事有萌蘖。故幸有
見之於伊川。季札察之於音樂。翁閱全體新論。而知
夷狄豺狼之不可厭。而禍心苞藏于幾微恍惚之中。
五也。翁年齒與予相若。而飲酒不予若也。予博奕以
永日耳。翁熱膏油以繼晷。操觚之際。不得不忸怩而
敬服也。

安政丁巳初夏 加藤良伯撰



一夕鑿話

此編所錄係一時間答。頃者竊憂世鑿之日失古轍。而為西戎鑿說
者。觀其釁而動焉。將滔滔不可返焉。此豈可默而止乎。輒更出舊稿
校勘一過。附諸劄劄。書成於偶然。事出於倉卒。則辭之卑俚。不暇擇
也。嗚呼。世有與魯漆室之女同志者。則當知予過刻此書之微意而
已。

時安政丁巳歲初夏

鑿隱革谿記

目次

卷上

第一問

一老鑿來元鑿學ノ用心ヲ問ニ答フ。

目次

第二問 醫ヲ學フニハ。最初ニ見識ヲ立ベキコト。及和蘭醫學ヲ窮理トイフハ。名稱ノ相當セヌコトヲ辯ズ。

第三問 從來學得タル所ノ次第ヲ聽テ。而シテ后ニ予ガ本意ヲ辯ゼントス。

第四問 惣テ易簡ニ從テ。天下ノ理ヲ得ベキ。我大皇國ノ人ノ天稟ナレバ。ソレニ背タル西戎ノ說ヲ奉ゼントスル時ニハ。國家

ノ妨害ト為ベキコト必然ナル趣ヲ說且一切ノ疾ハ。悉皆自為ル孽ニシテ。人身ニハ之ヲ除去ベキ自然受用ノ排洩カアルソ

ノ義ヲ明ニスルヲ。醫道ノ窮理ト為コトヲ辯ズ。
第五問 西戎醫說ヲ主張スレバ。其弊終ニハ天下ノ風俗ヲ紊スニ至ルベシ。故ニ唯實學ニ依テ。易簡ノ大道ヲ修行スルヲ。此國

土ニ相應セル醫學ノ本旨トスルコトヲ辯ズ。
第六問 從來藥物ノ性効ヲ說コト差謬多キコトヲ論ジ。傷寒論ヲ軌轍トシテモ。方藥ハ時ニ應ジタル機變アル可コトヲ辯ズ。

第七問 妄情俗慮ヲ省キ。毀譽榮辱ノ念ヲ一掃スルニ非レバ。真

ノ醫術ハ脩得難キコトヲ辯ズ。

卷中

第八問 傷寒論ノ簡約ナルト。和蘭醫說ノ纖巧ナルトヲ。凡庸ノ

人ノ眼ヨリ看ルトキハ。纖巧ナル方ガ優タルヤウニミユレド。簡約ナルカタク却テ天地ノ正理ニ合シ。我邦人ノ天稟ニ協ヌ

ルコトヲ論ジ。且傷寒論ハ。夏殷周ノ間ニ成タル古醫典ニシテ。

上古此伎ニ聖ナル者ノ手ヨリ出テ。イカナル機智緻密ナル西

我ノ醫書ナリトモ。此書ニ比テハ。猶燈光ノ太陽ニ於ルガ如ク。大凡全世界中此書ノ上ニ超ベキ醫書ハ無コトヲ辯ズ。

第九問 傷寒論ハ我邦ノ淳樸實實ナル風土ニ相應セル。公平易簡ノ大道ナルヲ以テ。我邦ノ人ニアツテハ。必是ヲ規則トシテ。醫術ヲ為ニ如ザルコトヲ辯ズ。

第十問 傷寒論ノ三陽三陰ノ病位ダニ明ニ辯得ルトキニハ。一切ノ病ヲ治スル標的ハ自ラ建ヌルコトヲ論ジ。和蘭醫說ノ纖巧ナルト。後世醫說ノ妄誕多キトノ優劣利害ヲ辯ズ。

第十一問 和蘭醫說ヲ一槩ニ實際ヨリ出タリト思フ。謬見ヨリ。人多クコレニ迷入ルハ。全ク世人ノ墮窳年知ニシテ。日本魂ヲ失タル一時ノ弊風ヨリ出タルコトナレバ。我邦ノ神慮ニモ悞

ガタク。巨ナル國家ノ妨害トナルコトヲ辯ズ。

第十二問 惣テ異邦ノ事ヲ採用セント為ニハ。必國家へ對シテ。我私ヲ去テ。至公ノ取捨ヲ以テシ。自己ノ愛憎ニ辟シテ。濟世ノ志ヲ失可ラザルコトヲ論ジ。假令藥物伎倆ハ採用ルコト有トモ。奇詭隱僻ノ說ニ至テハ。必之ヲ排シテ。邪教ノ根莖ヲ斷ズベシ。然ラザレバ。此伎ヲ修ルニ縁テ。終ニハ天下ノ罪人ト為コトヲ辯ズ。

卷下 醫書ニ對シテノ藥本ノ目次ハ

第十三問 和蘭ノ藥物ヲ採用センニハ。必唐宋以後ノ方ニ倣コト。我邦ノ風土ニ相應シ。効用ヲ辯知スルコト速ニシテ。弘ク世ニモ行レ易キ。濟世ノ本旨ナルコトヲ論シ。自己ノ從來試驗セ

シ藥劑ノ中ヨリ。數方ヲ鈔出シテ。其裁酌ヲ示シ。彼ヲ以テ我ヲ
溷^{ミダ}サズ。我ヲ以テ彼ヲ擇ビ。異方ノ藥物ヲ採^{トリ}テ。直ニ我物ト為^ス
キコトヲ辯ズ。

此編ニ載ル所ノ藥方ノ目次ハ。

瀉水丸 調胃丸 健中丸

解凝丸 胡黃連丸 中央匱丸

去疾丸 狄鹽丸 赭丹丸

利膈丸 制蟲丸 鶴蟲散

鶴蟲丸^{ニ方} 當歸湯 起痛丸

等ノ十六方ニシテ。是其槩略ナリ。

第十四問 我邦ヲ以テ中華トシ。異方ヲ以テ盡ク夷狄トシ。能華

夷ノ差別ヲ明カニシテ。志ヲ立ベキコトヲ論ジ。且和蘭ニ言ト
コロノ窮理ノ稱ノ。名實ニ背馳セル餘論ヲ果シ。且鑿學ノ修行
ヲ速ニ成就センコトヲ欲スルニハ。飲食。寤寐。身體。氣息。心意ノ
五事ヲ調適セシム可コトヲ辯ズ。

以上十四問答

戊申歲冬辜月

無適菴拙者記

往歲此書ヲ刻シテ將ニ成ントスル時ニ至テ。火^カ具^グ土^{ツキ}神^ノ
為ニ奪去レテ烏有トナリシヲ以テ。世ニ布ニ至ラズシテ。
空ク歲月ヲ過セシガ。今茲有志ノ士ノ勸テカヲ助ラル。

ニ凭テ。再之ヲ梓行スルコトニハナリシナリ。
慶應乙丑歳秋八月 黙翁再識

為申於事月
無面奉出音信

以上十四問答

正事也願遊小の河ロイア辯入

コロノ... 美山...

一夕醫話卷上

一第

一夕。サル邊鄙ナル一老醫來問テ曰。己ガ家ハ世々醫ヲ業トシ
テ。粗人ニモ知ラレ。衣食ニモ事足ヌレバ。幼ヨリ庭ノ訓ヲ受テ。
和漢古今ノ醫書ヲ讀。儒家ニモ從テ。經史ヲ涉獵シ。年二十歳ノ
頃ニ。京師ニ遊學シ。名アル醫家ニ隨ヒ學フコト數年。ソレヨリ
江戸ニ來テ。世ニ大家ト呼ル。人々ヲモ普ク叩問シ。雜科ノ事
ヲモ盡ク學タレバ。醫學ハ是ニテ成就シヌト思ヒ。二十七歳ノ
頃。故郷ニ歸リ。父モ年老ヌレバ。專ニ治療ヲ事トシ。豫テ學得タ
ルトコロヲ以テ。諸有病者ニ試ミ。勤勵ムコト數十年。マタ世上

卷上

頻ニ和蘭ノ醫學ヲ珍重^{モテハヤス}モノ多ナリヌルヲ以テ。旁彼翻譯ノ書

ドモヲモ多ク集テコレヲ讀ソレ等ノ藥物ヲモ交用テ試タレ

ドモ。惣テノコト確ニ認得^ミタリト思コト、テハ少ク。五十餘歳

ノ今日ニ至レドモ。愈暗ク。壯年ノ頃ヨリモ。術モ却テ拙ク。臆病

ニノミナリユクヤウニ思ハル、ナリ。サラバ予ノミ此ノ如ク

ナルヲカト。世間ノ醫流ヲ看ルニ。多クハ予ニ均ク。誰モ認得タ

ル輩ハナキヤウナリ。コレハ如何ナルコトニカアラシ。

答テ曰。問ル、處極テ實際ニ涉テ。深ク感ズル所ナリ。近来ハ世間

ノ人情マス々輕薄ニナリハテ、大醫先生ト稱ル、者マデモ。多

クハ虚飾^{ウベノトリクシヨ}ノミニテ。真實ニ醫學ヲ研究セント思者ハ絶テ無キニ。

須白ノ今日ニ至マデモ。意ヲ職事ニ留テ棄オカズ。遠ク來テ予ヲ

マデモ訊ル、ハ。道ニ僻境ニ在テ。世間ノ弊風ニ染ザル詮^カモ見エ

テ。吾子ノ醫事ニ深切ナル志ハ知ラレタリ。今其憂タマフコトヲ

聽ニ。全ク先初ニ見識ノ立ヌ故ニ。年老テ後悔シタマフコト多ク

ナリヌルナリ。

二第

問。一切ノ事。學テ後ニ乞^コ。其理モ會得セラレ。見識モ立モノナル

ベケレ。然ルヲ見識ノ立ヌ故ト言ル、ハ。信ジ難キニ似タリ。學

業成就セヌサキニ。見識ヲ立ルト云コトハ。如何ナル故ニヤ。

答テ曰。世人多クハ左ニ意得^{コホク}ルガ故ニ。偶見識ノ立タリト思フモ。

真ノ見識ニ非シテ。多クハ固執偏見ナリ。見識トイフハ。素ヨリ才

學識ノ三調ヲ具セザレバ能サルコトニテ。喻バ音曲ノ調子ノ如

ク。此三ガ整ハ子バ。調子ノ合ヌ音曲ノ聽ニ堪ザルニ均シサレド

卷上

二

今吾子ノ言ル、如ク。學業成テ後ニ初テ見識ノ立モノト思モノ
ガ。十人ノウチ八九人ハ然ナリ。予ガ見識ノ立トイフハ。其心ノ嚮
トコロ定リテ動ヌライフナリ。其故ハ。先吾醫ノ業ハ如何ナルコ
トヲ職分トスルトナレバ。人ノ疾苦ヲ愈スベキ為ニシテ。素ヨリ
此ニ由テ。食祿ヲ得。富ヲ致シ。財ヲ積ントニハアラズ。サレバ唯一
途ニ醫術ヲ以テ己ガ職業トシテ。勤修メ。其報ヲ得ト不得ハ。人ト
天ニ任スルニアリ。故ニ其術ヲ修ニ為ニ。儒學ヲモ為コトナレバ。
タゞ博ク讀多ク記得シタリトモ。術ニ於テ用ナキコトハ。悉皆閑
事業ナリ。况ヤ詩文記誦ノ學ニ空ク光陰ヲ費スノ類ハ。多岐^{オボエ}止羊^{オボエ}
ノ咎免ガタン。故ニ醫ニシテ儒學ヲ為ニハ。第一ニ。此醫術ノ條
理ヲ明ムルコトヲ專務トスベシ。詩ニ。有物有則トアツテ。天地ニ

ハ天地ノ道アレバ。人ニモ亦人ノ道アリ。然バ吾醫ニモ亦自然ナ
ル醫ノ道アルベシ。其道トイフハ。他ニアラズ。實理ニシテ妄ナキ
誠ノ一ナリ。故ニ此實理自然ナル道ニ順ヒテ。造次ニモ顛沛ニモ。
之ヲ修テ止ザレバ。見識ハ從テ立モノナリ。故如何トナレバ。人ノ
病アルトキニ。副^{ササ}急^キ苦惱ヲ除ント憐^{アハレ}ヨリ。ニツナキ身命ヲ醫ノ所
措^{マカ}ニ委任スルニアラズヤ。然バコレ等閑ノ事ニアラズ。イカニモ
心ヲ盡テ速ニ効アラシムコトヲ覓^{モト}ベキナリ。故ニ此術ヲ脩ニハ。
第一ニハ。國家ノ恩頼。祖宗ノ功德ヲ。一日片時モ忘ルコトナク。名
利ノ私欲ヲ離レ。俗情ヲ去テ。只管^{ヒタスラ}ニ誠ノ心ヲ盡テ實理ノ上ニ求
ルニアリ。故ニ此心ヲ唯速ニ人ノ疾苦ヲ救ント念フ仁愛ノ一途
ニ止テ。名利ヲ慕コト無レバ。始テ心ノ嚮トコロ自定マリテ動コ

トナクシテ。醫術ノ條理ハイツトナク見レ知ラレ。遂ニハ易ニ言
トコロノ。窮理盡性ノ境ニ至ルベシ。予ガ所謂窮理ハ。蘭學者流ノ
テ。コレヲ窮理トイフモノトハ。相表裏シテ。嘗壞ノ隔トナ
ルコトナリ。ナホ次ノ第四問ニ論ジタルヲ参考スベシ。此見識
ダニ立トキニハ。鑿タル者ハ。唯是人ノ病ヲ救コトヲ以テ急務ト
スベキ職ナレバ。要捷タル成効ノ見ユルコトナラデハ。此術ニ用
無コトヲ知テ。專實際ニ心ヲ盡ベキナリ。人生七十古來稀ナリト
イヘバ。生涯ノ間ニ學トコロノ日數幾日バカリゾ。タトヒ病モナ
ク障モナクテ。十四五歳ノ頃ヨリ。三十歳ニ及マデノ。前後十五年
ノ間ノ日數ヲ籌レハ。僅ニ五千餘日ナラデハナシ。ソノ僅ナル日
數ノウチニモ。賓主應接ノ止コトヲ得ザル。親戚執友ノ吉凶ノ隙
入ヲ除テミレバ。三ガ一ノ日數ニモ充ヌ。僅ニ千五六百日ノ間ニ。

儒學ヲモ為。醫書ヲモ讀。藥物ノ効用ヲモ辨ヘ。病者ノ様ヲモ診。熟
ントスルナレバ。他ノ伎藝雜事ハイマデモナク。假令書籍ナリ
トモ。讀テ醫術ニ裨益ナキモノニ空ク惜光陰ヲ費サシコト。勤不
可ナリ。故ニ無用ノ書籍ヲ讀。無用ノ詩文ヲ作コトナドニノミ意
ヲ用テ。醫術ニ疎脱ナル者ヲバ。學醫ハセガ廻ヌト。俗人マデニ誹
謗セラル。ハ。其初ニ見識ヲ立ルコトナクシテ。修行ノ宜カラヌ
故ナリ。况ヤ今ノ世ノ時醫ノ。學問モナク。治術ニモ拙。唯飾言虛
辭ヲ以テ。俗人ヲ嚇詐者ニ於テハ。不仁是ヨリ甚シキコトハアラ
サルナリ。然ルヲ此心ノ嚮トコロ一タビ定リヌレバ。自己ノ名利
榮耀ヲ求ル念慮モ起ラズ。酒色ニ耽。睡眠ヲ貪ル隙モ厭レテ。一途
ニ業事ヲノミ修行スルコトナレバ。偏見ヲ構ヘ。門戸ヲ建。一方ニ

三第

ノ三拘泥スル。吾鑿ノ本旨ニ非ルヲモ自辯知ル、ノミナラズ。薄行^{ハジツツイシヤウ}足恭ノ行ハ。心ニ恥テイツトナクセヌヤウニナルナリ。カレバ。強テ求ルニアラスシテ。日ニ沿月ニ増テ。發明シ自得スルコト有ベキナリ。コレヲ初ニ見識ヲ立ル者トハイフナリ。

問。説ル、トコロ。略其理ハ聽エタリ。サレド予ガ如ク少壯ノ時ヨリ多^{サマシ}方ニ苦心シテモ。唯徒事^{ヒツラフ}ニナリテ。ソレマデニ見識ノ立ヌコトハ。今サラ悔テモ詮ナキコトナリ。且須白ノ今日ニ到テハ如何アランカト懐ヘド。言ル、如ク俗情ヲ離レ真理ノ上ヨリ求タランニハ。自己一分ダケノ益ハ得ラルベキコトニヤ。

答テ曰。ソレハ言マデモアラス。是下既ニ已ラ空ウシテ来テ予ニ問ル、ハ。コレ發明ノ萌ヲ含ルナリ。朝ニ道ヲ聞テ夕ニ死ストモ

四第

可ナリト聽ケバ。今ヨリ後悔シテ。俗情名利ヲ離レ。實際ニ由テ學タランニハ。日ナラズシテ悟得ラルベキナリ。抑吾子今マデ學レシハイカナル鑿風ゾヤ。先之ヲ聞テ後ニ予ガ本意ヲモ譚^{カキ}マラスベシ。

問。予ガ父ハ。專漢方ノミヲ用テ。古今ノ差別モセザリシ故。予モ少壯ノ時ヨリ。素問靈樞。難經等ヲ初。傷寒論ノ如キハ。諸家ノ講説ヲモ聽。マタ博ク古今ノ註釋ヲモ參攷シ。自己ノ發明ヲモ記テ。私ニ一部ノ書ヲ成セシモノモアリ。其他。唐宋元明清ノ鑿書モ。其名アルモノハ。讀ニ從テ鈔録シ。此方先哲ノ鑿藉モ。博ク讀テ遺コトナク。後亦和蘭翻譯ノ鑿書ヲ採テ。之ヲ讀ニ。解剖ニ依テ。病ノ原由ヲ論ジ。分析シテ藥ノ性効ヲ説コトノ如キ。和漢從

来ノ醫說ニ比スレバ。實際ニシテ。邈ニ優コト多キヤウニ思ハ
ル。ヨリ。大ニ疑惑ヲ起シ。其說ニ從テ。其藥物モ多ク用テ試タ
ルニ。論說ノ精巧ナルホドニハ。藥ノ効モナク。刺絡シテ病勢反
テ進ミ。汞劑。菲阿斯。阿芙蓉ナドヲ誤用シテ。人ヲ損ヒタルコト
モ亦多ク。却テ毛ヲ吹テ癩ヲ索ルヤウナルコトノ數有シノミ
ナラズ。蘭書ヲ讀テ。愁ニ滯礙ガ出来テ。臆病ニナリ。治スベキ病
ヲモ治シ得ズ。後悔スルコトモ亦多シ。此人如ク治療ニ心ヲ委
テヨリ。三十年ノ久キ。伎術ハ壯年ノ頃ヨリ反テ拙クノミナリ
ユキ。手ニ覺テコレゾ實驗シタリト決定シタルコトハ少ク。多
クノ藥物モ。譬ハ一面識ノ交ノ如クナレバ。人ニ對シテ確ナル
コトモ詔難ク。門人ドモニモ已ガ心ニ恥テ。カクト傳ベキコト

モアラズ。且獨予ノミニ非ズ。誰ガ為トコロヲ看テモ。多クハ靴
ヲ隔テ痒ヲ搔ヤウニ思ル。ナリ。况ヤ予ガ如ク弱冠ヨリ刻苦
シテ。老境ニ到マレド。茫洋トシテ津涯ヲ知ズ。コノマ、ニ朽果
ンモ嘆シキコトナリ。可怜ソノ歸宿トスベキ方ヲ指示タマヘ
カシ。

答テ曰。古今ノ差別ヲセラレザルコトハ實ニ可ナリ。マタ我邦ヲ
以テ他國ヲ矚トキハ。漢土トイヘドモ亦異域ナレバ。古今ノ差別
ヲ為ベカラザルノミナラズ。漢土ト西戎ノ差別ヲモ亦為ベカラ
ザルニ似タリト雖。ソレハ我ト彼トノ上ニテ論ズル。一概ノ見解
ニテ。公平ノ說ニアラズ。如何トナレバ。漢土ハ我邦ト邦域モ近ク。
民ヲ重シトシ君ヲ輕シトスル道ノ差ハアレド。風土人情ニ至テ

ハ。能相似タルヲ以テ。ソノ建ルトコロノ教ガ。我邦先皇ノ聖意ニ
相符スルガ故ニ。其書ヲ輸テ治教ノ補トナシ。制度ノ可コトヲモ
採用^{カナフ}タマヒシナリ。彼西戎ノ國ノ如キハ。萬里ヲ隔テ。風土人情モ
同カラズ。其教ヲ立ル所妖邪ニ涉ラザルハナシ。而此醫學モ亦邪
教中ノ一ニシテ。其根源ヲ同フスレバ。其辨別ヲモ知ズシテ。妄ニ
之ヲ採用レバ。必彼ニ化セラレ。風俗ヲ濫^ミテ天下ノ大害トナルコ
ト也。抑此祆教ノ我邦ニ在テハ。天下ノ巨害トナルコトナレバコ
ソ。織田右府。豊國大神ヲ初トシテ。國初ノ明君モ嚴ク之ヲ禁シ^街
シナレ。醫科ハ。其邪教中六科ノ第三ニ在テ。六科ハ。文科。理科。醫科。
法科。教科。道科ニテ。四
庫全書ニ。第二ノ理科ヲ學得タル者ノ。進テ醫科ヲ學トイヘバ。醫
出タリ。學直ニ是祆教ナレバ。若公平ノ取捨ナクシテ。妄ニ之ヲ採用ルト

キハ。國家ノ嚴禁ヲ犯ニ近キラ以テ。能此用心ナクンバ有可ラザ
ルコトナリ。已ハ愚魯ニシテ才短ク。學トコロモ博カラ子バ人ニ
對シテ語傳ベキコトモ有子ド。但此道ニ於テハ。少年ノ頃ヨリ研
究シ。專之ヲ實際ニ試験シテ。聊慮得タルコトモアレバ。今懇ニ問
ル。ニ從テ。其一端ヲ說話シテ。後西戎醫說ノ世ニ害アルコトニ
モ及ベシ。抑人ノ病ト稱モノハ。素ヨリ此體ニ有ベキモノニアラ
ズ。悉皆不養生ヨリ得タル者ナリ。ソレハ如何トイフニ。世間通途
ノ人情ニテ。祿位ヲ得テ人ニ驕^{タカ}誇シ。又ハ財貨ヲ多ク得テ。酒色ニ
飽。歡樂ヲ恣ニセント希ナドノ。情欲ノ止難キヨリ出テ。惣テノ操
作ニ心ヲ以テ形ノ役ト為之ガ為ニ熱中スルコトノミ也。若然ラ
ザレバ。讀書伎藝ノ為ニ夜ノ更ルヲモ厭ズ。身ノ疲ルヲモ顧ズ。

又ハ肥肉厚酒爛腸之食ノ為ニ。身體ヲ損害スルノ類。惣テ是等ノ
不養生ノ積累テ。イツシカ周身ノ血液ガ凝澁シ。腸胃ノ消化遲鈍
ナリ。微ノ物ヲ喫テモ。宿滯シ易ク。風寒ニモ亦冒レ易レ。加之。癰疾。
肥前瘡ナドノ毒ガ。身裏ニ潜伏シ。或ハ之ヲ胚胎ノ初ニ傳受タル。
所謂胎毒ナルモノガ。遠因トナリ。變ジテ種々ノ病苦トナリテ。之
ヲ除去ノ道ヲ得ズ。身體モ從テ罷癘瘵瘁シテ。天壽ヲ全フスルコ
ト能ハズ。又ハ傷寒。瘟疫。感冒。瘡。疥等ヨリ始。毒ヲ氣中ヨリ傳ル。疔
瘡。麻疹ノ類ニ至マテ。一切ノ病ハ。悉皆人ノ招致ニ非ル者有コト
ナシ。故ニ小天地ナル人ノ體ナル。生成ノ機關ハ。此妨害トナル所
ノ疾苦ヲ厭憎コト甚ク。カラ窮テ之ヲ排除ントシテ。對抗スル所
ノ躁擾ガ。内ニ萌外ニ見レタルヲ。呼テ病證ト云。コレヲ譬ルニ。國

家ノ政。中和ヲ失ヒ。上下ノ人情交通セザル時ハ。天地ノ大氣コレ
ガ為ニ乖戾シテ。寒暑節ヲ違ヒ。狂風。暴雨。洪水。旱魃。大地震ナドノ
變起リ。遂ニハ飢饉。疫癘。外寇。兵亂トナルト。大小ノ違アリト雖ソ
ノ理ハ。全ク一般ナリ。此病證ヲ發スル機關ヲ。元氣ノ主宰トモ。天
稟ノ作用カトモ。自然受用ノ排洩カトモ云。人身ニ此化育ノ妙用
ヲ具ルヲ以テノ故ニ。我中和ノ氣ヲ冒ス所ノ病邪ヲ排除ント欲
スル機關ノ運動ヲ發シ。侵トコロノ邪毒ノ淺深輕重ニ從テ。對抗
ヲ為モノナレバ。其身體ノ強弱。血液ノ有餘不足ト。感受ノ差等ニ
從テ。病證ニ劇易ノ證候ヲ見スナリ。而シテ其障トナリ害トナル
者ニ抵當シテ。其對抗ノ力盡。生命ノ絶ルマデハ。應ジテ止ザルハ。
生成窮ナキ所ノ一氣ノ流行ナレバ也。凡ノ病者。假令ハ百人アラ
ニ。其中九十人ハ。此自然

受用ノ排洩カノ對抗ニ依テ發スル。所謂病證ナルモノハ、機關ニテ自ラ治シ殘九人ハ鑿藥能其肯綮ニ遣スル。佐ヲ得レバ、治スルニ速ニ之ヲ免レバ、之ヲ得レバ、廢瘡不治ニ陥ル。鑿士能之ヲ佐ルニ實ニ之ヲ算スレバ、顧テ此自然受用ノ排洩力ノ入モ問等、戾又ガ。蘭鑿輩ノ自然良能ノ機關ナリ。畢生間コノ問、迷入モ問等、世鑿ノ利ヲナラズコトナリ。此自然受用ノ力ニ戾テ、世ノ問等、ヤウルコトナレバ、能ハコトナリ。此自然受用ノ力ニ戾テ、世ノ問等、ガ。蘭鑿輩ノ自然良能ノ機關ナリ。畢生間コノ問、迷入モ問等、ト指テタル多キト。吉益流ノ鑿士ガ萬病一毒ト言フモ、其祖東洞ガ毒用テ人ヲ損モ殿ノ不自由ナリ論ジテ、能シ此義ヲ得ハ、拙ケレド。能此意ハルテ言ル。且モト病證トイフ證ハ、證驗證左證據ナド、熟字シテ、説文ニハ、告也ト訓、增韻ニハ、質也トモ訓テ、病ノ所

在ヲ告テ質驗ト為ベキモノヲ指テ言ノ名ナレバ、證ノ字ヲ徵ト通ズトモ註シタリ。然レバ此病證ハ、天地未生以前ノ條理ヨリ生ジ。見レテ證徵ト為ベキノ名ナレバ、今吾鑿ノ道ヲ修ルニモ、唯其見レテ察ナル所ニ隨テ、能之ニ應ズベキ術ヲ修。其力ノ足ザルモノヲ助テ、之ヲ救ヲ。歸宿トスベシ。是ヲ正大高明ナル鑿道ノ窮理トハイフ也。是乃漢土ノ古昔。此道ニ至聖ナル人ノ傳ルトコロノ大道ニシテ、彼西戎黠智ノ能覩得ル所ニアラズ。易ノ繫辭傳ニ、天地ノ道ヲ説テ、易則易知、簡則易從、易簡而天下之理得、兵トアルヲ觀レバ、天地自然ノ理ヲ窮テ、其功ヲ致ント欲スルニハ、易簡ニシテ、知易ク從易キ道ヲ修テ、之ヲ行フニ勝タルコトアルコトナシ。故ニ吾鑿ノ修行モ、コレヲ以テ正鵠ト為ベキコトナルヲ。今人却テコレニ背タル西戎ノ奇智詭巧ノ學ヲ呼テ窮理ト為ハ、明ノ世ニ、西戎人艾儒畧ナドガ、漢土ノ書ヲ讀コトヲ知テ後、其理學トイ

此ノ如キ邪説ヲ吐出シテ。窮理ト唱ルハ。全ク大道ヲ知ズ天命ヲ
辨ゼザル。詐譎機巧ノ私心ヨリ出テ。天地ノイマダ剖判セザル前
ヨリ。定テ動ザルトコロノ真理ニ戻ヲ以テ。國家ノ世教ニ巨ナル
害トナルコトナレバ。決シテ我邦人ノ奉ズベキ者ニ非ル也。然ル
ヲカ、ル辨別モナク。唯時好ヲ逐。纖巧ニ昧サレテ。專ニ西戎ノ學
ヲ為モノハ。イツシカ彼ガ邪教ノ罟獲陷阱ニ納ラレテ。之ヲ辟ル
コトヲ知コトナク。彼ヲ是トシ我ヲ非トシ。其身ノ西戎馱舌ノ奴
隸トナルコトヲ甘ニジ。終ニハ天下ノ賣賊トナリ果ントスルハ。
豈惑ノ甚シキニアラズヤ。今幸ニ天地神明ノ擁護ニヨリテ。三代
以上ノ古典ナル我邦ノ樸素易簡ナル風土ニ相應セル條理正キ
傷寒論ノ一書ノ存スル上ハ。凡鑿タル者ハ。之ヲ以テ根據トシテ

見レテ證左トスベキ患状ノ支揮ニ從テ治術ヲ施スヲ第一義ト
シテ。遠目ヲ搜。隱微ナルコトヲ尋ントスルコトヲ置テ。知易ク從
易キ易簡ノ大道ヲ守コソ。我邦人ノ天性ニ循ヘル。正大公明ナル
窮理盡性ノ鑿道也トハ謂ベケレ。然ト雖。一切病因ニ據テ治スル
コト無ト云ニハアラス。但其知可ラザレモノヲ強テ知ント欲ス
レバ。多クハ臆測ニナリテ。治術ニ裨益ナク。動^ヤバ人ヲ損害スルコ
ト多キモノナレバ。主トシテ其病位ヲ詳ニシテ。治法ヲ處スルニ
優タルコトハ有ベカラズ。コレヲ捨テ鑿學成就ノ捷徑ハナシコ
レ即飢^シテ喫^ク寒^サテ襲^サ朝^チニハ戸ヲ開キ。暮レバ燈ヲ掲^カルガ如ク。現ニ
功驗ノ見ユル實造實詣ナルコトハ。予ガ數十年來之ヲ病者ニ徵
セシ事ニシテ。後世宋明以後ノ鑿流ノ空論虛誕ノ類ニ非レバナ

問。説ル、如ツナラバ。吾鑿ノ術ハ。全ク儒者ノ道ナリ。モシ然ラ
 ンニハ。香川太冲ガ儒鑿一本トイフモノニ似タリ。然ラバ。従来
 ノ鑿書ハ。盡ク棄テ。儒典ニ由テ鑿術ヲ學ベキコトニヤ。
 答テ曰。儒術モ。鑿伎モ。天地ノ道ニ根由スルモノナレバ。其條理ニ
 於テハ。素ヨリ相違アルコトナキハ。前ニ既ニ辯ズルガ如クナレ
 バ。若人ノ病ヲ治スベキ鑿道ノ極旨ガ。天地ノ條理ニ戾ナバ。イカ
 デカ道トスルニ足ランヤ。故ニ儒鑿一本トイフトモ。強ニ誣タル
 言トイフニハアラ子ド。カノ太冲ガ如キハ。其初ハ儒者ニナラン
 ト思シ志ヲ轉ジテ鑿ヲ業トセシニヨリ。其著トコロノ行餘鑿言
 ノ序ニモ。鑿ヲ學ブハ。身ヲ修ルノ一端ナルヨシヲ記シ。儒書ニ由

テ。一本ノ宗旨ヲ發明セシト言テ。自聖賢儒中ノ鑿ニシテ。方伎者
 流ニアラズト稱スルハ。イマダ名聞我慢ノ氣習ヲ免レザル者ナ
 リ。予ガ言トコロハ左ニアラズ。惣テ人ノ儒トナリ鑿トナリ。或ハ
 士トナリ。農工商トナルモ。悉皆其身ニ具レル天命ノ定リタル者
 ニシテ。遁ントシテモ遁難キモノナレバ。假令鑿ノ如キ賤キ業ナ
 リトモ。心ヲ其受得タル職ニ安ンジ。其伎ヲ修テ。天理ニ背ヌヤウ
 ニシテ。易簡正大ノ道ヲ自得スルマデノコトナリ。其故ハ。設才德
 傑出ノ士ナリトモ。亦ハ王侯大臣ノ貴キト雖。一タビ病アルニ臨
 テハ。生殺ノ權ハ。唯一人ノ鑿士ノ手ニ存コトナレバ。其任ノ至テ
 重キコトハ。他ノ伎藝ノ比ニアラズ。然レバ此職ニ在モノ。其用心
 無レバナラヌコトナリ。我邦ノ太古ノ樸素ナル世ニハ。一切ノ事。

多クハ言語ヲ以テ相傳タルモノナレバオホナムチノカミ大已貴神スナヒトノミコト少名彦命病ヲ
療ズル藥方ヲ始タマヒシトイヘド。世ニ傳タルモノモ少ナシ。漢
土ニテモ。周世戰國ノ頃ヨリ。漢魏ノ間ニ至テ。醫緩。醫和。或ハ秦越
人。大倉公。華佗ガ輩アリト雖。僅ニ左傳。史記。漢書。三國志ナドニ。其
事ノ概畧ヲ載ルノミニテ。傳聞ノ誤モ亦多ク。醫家ノ為ニ論說セ
ルモノニ非レバ。今ニ在テ據トナシガタシ。一家ノ說トシユル素
問。靈樞ニハ。至言妙語ナキニアラ子ド。從來ノ補脩ニ出タル空論
モ亦多ク。神農本經ニハ。道家ノ說ヲ交テ。齡ヲ延。身ヲ輕クシ。穀ヲ
避テ饑ズ。能水上下行ナドノ類。疾醫ノ道ニ切實ナラス。先師櫟窗
草綱目纂疏ノ序ニ。神農本經ハ。全ク後人ノ偽撰ナルコトヲ。諸書ヲ引テ詳ニ辯ゼラレタリ。中藏經。褚氏遺書ナ
ドモ。亦其窩窟ヲ出ズ。唯肘后方。千金方ナドハ。道ニ古書ナレバ。採

用スベキコトモ稀ニハミユレド。駁雜多味ナル藥方ノミ多ク。外
臺秘要ニハ。傷寒論ノ軌轍ヲ守テ制シタル。諸家ノ藥方ヲ多ク舉
タレド。能取捨セザレバ。今日ノ用ニ中ラズ。コレゾ據ニセント思
フ書ノナキハ。畢竟漢土ノ醫人ニ傑出シタル者ノナキガ故ナリ。
大同醫式ニ。類聚方ヲ以テ規トスベク。猥ニ異方ヲ用ベカラズ。御
藥ヲ上ルニハ。大同方。某卷某散ニ。今按。異邦某醫書ノ說ヲ以テ。某
藥ヲ加ル由ヲ註進スベシトミエテ。我邦ノ昔ハ。太古ヨリノ醫方
モ儼然トシニ備シコト明ナレドモ。盡ク兵火ノ為ニ燬失テ。世ニ
存スルモノナク。世ニ傳タル大同類聚方ハ。全ク後人ノ偽撰ナレ
バ。採ニ足ズ。遺憾ナルコトモナリ。然ラバ已ニ大活眼ヲ具セズ
シテ。徒ニ汗牛充棟ノ醫書ヲ讀盡シ。朝夕ニ之ヲ講究シタリトモ。

治術ニ裨益アルニ非レバ。空クコレガ為ニ歲月ヲ費ノミナリ。前
ニモ言ル如ク。醫ハ至大至重ノ人命ニ關係スル職ナレバ。一日モ
速ク其說ノ是非邪正ヲ別白スベキ眼カラ具ベシ。サレバ先抵當
ル治術ニ毫モ唯證ナキ。五行配當引經報使ナドノ雲ヲ摑ヤウナ
ル空論虚誕ハ。盡ク擲去シテ。實造實詣ニ由テ伎術ヲ脩行シ。天地
造化ノ妙理ヲ研究スルニ如ハナシ。然ルヲ吾道ノ正路ヲ踐失フ
テ。唯自己ノ臆見ヲ以テ。吾ハ道三派ニナラン。後藤流ニナラン。東
洞流ノ古方ガヨシ。紅毛風ノ醫士ニナラントイヒ。又ハ存尚タル
コトモ無ク。徒ニ道聽塗說ヲ事トシ。一切捷徑ナルコトノミヲ是
トシテ。僅ニ一二ノ方書。假名ガキノ醫書ナドヲ。鹵莽ニ省過シ。又
ハ風土如何トイフ事ヲモ辨ズ。唯時好ヲ逐テ。誤譯ガチナル和蘭

書ナドヲ挾ミ。自己モイマダ明白ナラヌ處方ヲ用テ。思ヤウニユ
カヌヨリ。疑惑ハ起シド。自懲戒ルコトモ知ズ。事々窘感スルコト
アリテモ。遠ニ人ニモ問ガタク。止コトヲ得ズ。諛遁ノ辭ヲ巧ニシ。
詭譎ノ說ヲ吐テ。以テ自己ノ非ヲ覆昧サントス。是皆生涯闇ヨリ
闇ニ迷入ト云ベキモノナリ。或ハ僥ニ一等ヲ超テ。ヤ、才學アリ
ト稱スル者モ。其好トコロニ辟テ。必我ノ心ヲ以テ建タル流派ナ
レバ。真ノ見識トイフ者ニハ非シテ。唯是偏見ナリ。如何トナレバ。
吾醫ハ。人ノ病ヲ愈スヲ以テ專務トスル事ナレバ。純我意ヲ屏私
心ヲ去テ。唯仁愛ノ情ヲ以事ヲ處スベキコトナルニ。未熟ノ術ヲ
挾テ。妄ニ門戸ヲ張。名聞ヲ要ント欲スルニ至テハ。醫道ノ本旨ニ
背馳スルモノナレバナリ。况ヤ之ヲ以テ。務テ官途ニ進ミ。關節梯

謀ヲ以テ食祿ヲ得ント欲スルヤウナル。私意私情ヲ本トスル類
ニ至テハ。決シテ眞實ノ修行ハ成就セヌハヅノコトナリ。サレバ
吾醫ノ道ニ從事センモノハ。富貴利達ヲモ斷ズベシ。名聞豊華ヲ
モ求ベカラズ。我慢偏執ノ心ナク。己ガ流義ダテモ。世ノ嫌疑ヲモ
放下シテ。唯如何モシテ。世ノ為人ノ為ニナラントノミ希求ルヲ
本意トシ。一切ノ事。彼ハ此ヨリ善トオモハ。速ニ採用テ。毫モ詔
擬スルコトナカルベシ。儒書國典。諸子百家ノ說ヨリ。俗間假名ガ
キノ雜書。世間ノ猥說マデモ。惣テ此道ノ助トナルベキコトハ。尋
テ止ズ。况テ醫書ハ。漢土醫籍ノ夥キ。我邦近古ヨリ此方。世ニ名ア
ル人々ノ著セル書ドモノ中ニモ。其善ヲ擇。善カラザルヲ去。彼此
ノ差別ナク。設俗人ノ傳タルコトニテモ。其可コトハ棄ズ。及雜伎

ノ奥旨マデモ聽オキテ。此伎ノ援ヲ覓ベシ。此見識ダニ定ルトキ
ハ。假令吾子ノ如ク。和蘭ノ醫書ヲ交讀タリトモ。我邦ノ風土ニ相
應セシ。易簡ノ大道ニ適モノヲ擇ガ故ニ。彼ガ陰僻詭異ノ說ニ惑
昧サル。ノ患ナケレバ。却テ知見ヲ弘ムル助トハナルトモ。臆病
ニナリ。滯礙トナルコトハ決シテアルベカラズ。サハイヘ。事ハ簡
約ヲ以テ良トスルモノナレバ。其要領ヲ得タルノ後ハ。方劑モア
マリニ多キハ好マシカラズ。術ハナルベキタケ平易ヲ旨トセザ
レバ。弘ク人ニモ傳難ク。邊鄙マデニモ行レ難カルベシト思ヘバ。
予ハ務テ簡約ニセンコトヲノミ庶幾スルナリ。要ヲ以テ之ヲ言
バ。其初ニ見識ヲ立ルコトヲ專一トシ。擴テ天地ノ真理上ヨリ有
ユル萬物ノ生成スル所以ヲ明メンコト。是吾醫ノ格物致知ノ本

意ニシテ。窮理盡性ノ大道ナリ。カクシテ唯其實際ニ合モノヲ揀
コトナレバ。華夷古今ノ醫書ノ是非黑白ハ。一見シテ皆明ニ知ラ
ルベシ。又諸有病者ニ對シテモ。強ニ隱タルヲ索。怪ヲ行フニ至ラ
ズ。スベテ其見レタル病位ノ正鵠ヲ認テ。方ヲ處スルコトヲ主ト
スレバ。中ラズト雖遠カラズ。能此ニ煉熟シテ。歲月ヲ累レバ。イカ
ナル沈痾廢疾トイヘドモ。一診シテ其治スベキモノト。治ス可ザ
ルモノトヲ察シ知テ惑コトナク。良將ノ必勝ベキコトヲ前知ス
ルガ如ク。用ル所ノ藥物ノ性効マデモ。皆實際ヨリ分別スルガ故
ニ。其臭味ヲ觀。形狀ニ依テモ。毒ノ多寡。効ノ有無ハ自知ラル。コ
トハ。牛馬ノ野草ヲ別テ。犬猫ノ喫ベキ物ト喫ベカラザル物トヲ
嗅分テ之ヲ知ガ如ク。惣テノ事ニ深ク思慮ヲ用サズシテ。明白ニ

第六

知ラル。ナリ。然ルヲ。若我意偏見ヲ以テ。自得タリトスルトキハ。
天稟ノ才智モ。學問博識モ。皆是ガ為ニ邪路旁徑ニ陷テ。少モ實用
ニハナラズ。才智學問ガ却テ妨礙トナリテ。不知一丁字ナル者ニ
ハ劣ルナリ。故ニ實學ヨリ入。實際ヲ主トシテ學ベシトハイフ也。
必シモ儒醫ニナレト曰ニハアラザルナリ。
問。言ル、旨。一々ニ會得セリ。且大道ノ上ノ窮理ノ義ヲ譚セラ
ル。ヲ聽トキハ。今ノ世ニ西洋學ヲ窮理ト稱スルハ。大ニ差謬
ナルコトモ。亦明ニ知コトヲ得タリ。實ニ我意偏見ヲ去テ。自然
ノ條理ニ從テ求タランニハ。醫學ノ要領ハ自得セラル可コト
ナルベシ。併ナガラ藥物ノ性効マデモ自得セラル。ト言ル、
ハ。疑シキニ似タリ。如何ナルベキヤ。

卷上

十六

答テ曰。イカニモ藥物ノ性効ヲ悉知盡ベシト言ニハアラス。唯其
槩略ハ默識スベキナリ。太古神農ノ草木ヲ嘗テ日ニ七十ノ毒ニ
遇トイフハ寓言ニテ。聖人ノ神智ニテハ。一見シテ有毒無毒ハ自
ラ明メラルベキナレドモ。猶ソノウヘニ嘗試ナメコトヲ待テ。其性能ヲ審
ニセシニテモアルベシ。我邦ノ神代ニ。大名持オホナムテノ神。少名彥ノ神ノ
鑿藥ヲ昉シメタマヒシトイフモ。神農ト其趣ハ同コトナルベシ。今ノ
世ニモ民間ニ傳ル所ル妙藥奇方ト稱スルモノ、効能モ。神代ノ
遺傳ニモアルベケレド。誰ガイフトナクオノヅカラ知得タルト
コロガ。天地ノ妙用ナリ。マタ傷寒論ニ載ル所ノ古方ニ用タル藥
物ヲ。今ノ本草ニ檢ケンテハ。本篇ノ旨ト大ニ徑庭スルコトノミ多ケ
レバ。止コトヲ得ズ。コレヲ衆方ノ上ヨリ照管シテ。始テ其性効ノ

概畧ハ知ラル、ナリ。吉益周助ガ。此處へ目ヲ屬ツケテ。藥徵ヲ著タル
ハ。至極ノ發明ナレド。傷寒論集成ヲ著セシ山田圖南ハ。イツ但其
傷寒論ヲ解スルニ。論中第一ノ表準トスベキ。三陽。三陰ノ冒首ヲ
後人ノ攬入ナリトイフテ刪去。緊要ノ脉ヲマデ知レヌモノト言
テ之ヲ採ズ。自己ノ說ニ合ヌ章ハ。擅ニ改竄塗抹シテ。僻見ノミ多
ケレバ。藥徵ニ於テモ。亦石膏。人參。附子ナドヲ初トシテ。効用ヲ誤
認シタルコト少カラズ。主治。効治ノ說モ。本篇ノ旨ニ背馳シタル
コト多ク。スベテ自己ノ臆見ヨリ出タレバ。一々ニハ準用シ難ク。
其門人村井椿壽ガ續藥徵モ多クハ其類ナリ。故ニ能撰テ之ヲ採
ザレバ。ソレガ為ニ誤ル、コト寡カラズ。マタ一物一物ノ上ヨリ
之ヲ求テ。其槩略ハ知ラル、ナリ。今其一端ヲ言バ。甘味ノ物ノ中

渡邊玄毅
不自由存
天振

ニテモ。甘草ノ毒液ヲ抱撮シ。拘攣掣痛ヲ緩ベ。諸藥ヲ調和シ。逆氣
ヲ鎮ル効モ。大棗ノ胃氣ヲ和シ。拘急ヲ解。十棗湯ノ藥未ニ加テ。藥
物ノ舌咽ヲ刺螫スルモノヲ抱撮スル所ノ能モ。苦味ノ品ハ。腸胃
ノ機轉ヲ助。食物ヲ消化スルトコロノ効アルモ。口ニ嘗試テ自明
ニシテ。疑ヲ容ベカラズ。且苦味ハ。腸胃ノ機轉ヲ助ルカラハ。諸本
艸ニイフ如ク。熊膽。猪膽ノ類ヲ首トシテ。スベテ性寒ナル物ニア
ラズ。マタ同苦味ノ品ニテモ。差別アルガ故ニ。下利ヲ止ル。黃連。黃
芩ノ類モアリ。此等モ。傷寒論ニ用タル所下利ヲ催ス。盧會ノ如キ
モアレド。ソレヲモ其味ニテ大カタハ知ル。ナリ。然ルヲ黃連。黃
芩ノ類ヲ性寒ニシテ。熱ヲ解スル効アリトイヒ。又ハ吳有性が。大
黃ハ。走テ守ラズ。黃連ハ。守テ走ラズナド。イフノ類ハ俱ニ雲ヲ

摑ヤウナル虚説ナルヲ。後世ハソレヲノ説ヲ以テ。傷寒論ノ藥方
ヲ論ズル故ニ。大ニ齟齬スルコトニナリユクナリ。又辛辣ノ物ハ。
胡椒。蜀椒。草撥。桂皮。生乾薑。芥子。焯菜。辣茄ノ類ノ衝動ノ効アルモ
ノハ。スベテ消化ノカヲ助。血液ヲ循環スル主能ハアレド。兼タル
トコロノ氣味ニ從テ。マタ差別ナキコト能ハズ。同辛辣ノ物ノ中
ニモ。桂ノ氣血ヲ健運シ。滕理ヲ収攝シ。諸痛ヲ緩和シ。衝逆ヲ下降
スル等ノ殊能ハ。獨此物ニ有トコロハ。其氣味ニ自ラ明ナリ。四五
以前マデ。舶來セシ物ノウヘヨリイフコトニテ。近世又味辛キ物
輸トコロノ鹿惡ノ品ヲ以テ論ズルニハ非ルナリ。
ノ中ニモ。芥子。細辛ノ鼻ニ透徹スルホドノカアル物ハ。他ノ品ニ
ナク。芥子ハ。腦病ヲ治シ。細辛ハ。眼病ニ効アルモ。此鼻ニ透徹スル
ホドノカアルガ故ナリ。辛夷ナドモ。稍ソレニ近キ物ユエニ。少陰

病ノ頭腦ノ閉塞ヲ開キ。眼耳鼻ノ病ヲ治スルハ。其性味ニ具ルト
コロナリ。又生薑ノ嘔ヲ治スル偉効ハ。他ノ物ニハナシ。其嘔ヲ治
スル功ハ。胃氣ノ逆シテ潮モノヲ。此辛味ノ生汁ヲ以テ下降サス
ルガ故ニ。其逆ヲ為モノガ粘稠ノ汚液ナラバ汚液ヲモ下降サス
ベシ。宿飲敗水ナラバ。宿飲敗水ヲ驅逐スベシ。熱氣ニテ沸騰シタ
ルモノナラバ。熱氣ヲモ解釋スベシ。コレヲ乾シテ乾薑トナスト
キハ。其汁液ガ燥テ内ニ籠。一段ノ辛味ヲ増ヲ以テ腸胃ノ運化ヲ
助。下利ヲ止。鬱滯ヲ開キ水氣ヲ驅。腠理ノ閉塞ヲモ達スベシ。後世
姜ヲ炒黒クシテ。之ヲ黒姜ト呼テ用ルコトハ。張元素ガ。乾姜本辛
血ヲ止ル炮スレバ。稍苦シ。故ニ止テ移ラズトイヒ。朱震亨ガ。唾血痢
ノニテ。一切ノ物。炒黒クシテ用ベシナドイヘ。散スルモノナリ。今
世ノ庸工ノ附子ヲ畏ルモ。附子ニ代ルニ此黒姜ヲ以テス。今ノ
ハ。其効用ヲモ辨ズシテ。唯是乾姜ノ灰燼ヲ用ルモノナレバ。イカル

デカ効ヲ為コトアラズ。豈
感ノ甚シキモノナラズヤ。同辛味ナガラモ。辣椒ニモ芥子ニモ。此
逆氣ヲ治スル能ノアラザルハ。舌ニ味ヒ咽ニ下テ。オノヅカラ辨
知ラル。ナリ。孔子ノ薑ヲ撒ズシテ喫タマヒシトイフモ。此物ノ
胃氣ヲ下降シ。消化ノ機轉ヲ助ベキ物ナルヲ以テ。常膳ニ必喫タ
マヒシナルベシ。今此方ノ魚又膾ナドニ。此物ヲ副テ出スガ如ク
彼土ノ昔ヨリ。肉類ニ副テ常ニ供スルコト。ミエタリ。サレド偏
味ノ物ユエ。多ク喫テハ。腸胃ノ害トナランコトヲ思テ。多クハ喫
タマハヌコト。知ラレタリ。サルヲ朱子ノ註ニ。之ヲ喫テ。神明ニ
通スト記サレタルハ。隠テ知ヘカラザル効ヲイフコトニテ。聖人
ガ此一微物ヲ頼テ。神明ニ通ストイフハ。從來ノ鑿說ニ昧サレタ
ル誤ナリ。又此言トハ矛盾シテ。語録ノ中ニ。秋薑コレヲ喫ヘバ。人

信^{ゼラレシ}過^{ナリ}失^{ナリ}。惣テ後世ノ醫書本草ナドニ。藥物ノ性効ヲ論ズルコトハ。左右ニ妄言多キハ。是漢土人ノ癖ニテ。妄ニ信據シ難キコト。思^{オモフ}惟^{ベシ}。香川太冲ガ寒温ノ畏愛ハ。群狙ノ三四ノミトイヒテ。煎湯皆温論ヲ著テ。之ヲ詢タルハ。アマリニ藥性ノ寒温等ニ拘滯シテ。沿術ニ拙キモノヲ誠タルナリ。實ニ此ニ深ク拘滯シテハ。的確ノ處方ハ却テ立難キコトニテ。今ノ世ノ蘭學醫者ニハ。殊^{トクナク}テ多ク此弊アルハ。全ク穿鑿ニ過ルヨリ起コトニテ。吾子ガ蘭書ヲ讀デヨリ。滯礙スルコト多ク。臆病ニナリシト言ルハ。此^{ワケ}事故アルヲ以テナリ。三十年前。江戸ニテ。今年ノ蕎麥ニハ毒アリ。喫シ者ハ必死ス。何巷ニテハ蕎麥ヲ喫タル後。混^{フヤ}堂へ行シガ。湯槽ノ中ニ即死シタリ。ソレノ街ニテ。蕎麥ヲ喫タル者。三人一時ニ即死シタリ

ナド誰イフトナク語傳ケレバ。之ヲ喫モノ更ニナク。江戸市中ノ蕎麥舗ハ。晝モ戸ヲサシテ家業モセヌヤウニナリシコトノアリケル時。一蕎麥店ニテ。ウニカウル入毒消蕎麥トイフ招牌^{カシバン}ヲ大字ニ書テ出セシカバ。此物ヲ嗜モノ。吾モワレモト其家ノ物ヲ買テ喫タリシカバ。此家ノミ獨大利ヲ得タリシハ。其妄言ナルコトヲ知タルガ故ナリ。本草ヲ讀モノ。能此事故ヲ發明シ。其言ノ一々ニ信據シ難キコトヲ知テ。始テ株ヲ守ル陋見ヲ脱スベシ。宋朝ノ大儒ナル朱晦菴先生ガ。蕎麥舗ノ主人ニ智ノ劣ルハ。全傳罷ノ妄言ニ昧サレタル故ナリ。陳隋二代ノ國師ニテ。碩學道德ノ聞アリトイフ。天台ノ智顛禪師ガ。其兄ノ陳箴ニ傳タル。修習止觀禪要トイヘル書ニ。十二時ノ魔ヲ說。寅時ニ來モノハ。帛獸ノ魔ナリナド

、イヒ。其他醫事ヲ説トキニハ。イツモ陰陽五行ヲ譚シタルモ。彼
邦從來ノ陋見ヲ脱スルコト能ザル故ナリ。サレバ今迂遠ニシテ。
實際ニ用ナキコトニ拘テ。多クモアラヌ歲月ヲ徒ニ費サンハ。副
急事ヲ處スルニ害アレバ。逆ニ之ヲ看破シ。其塵芥砂土ヲ簸揚淘
汰シテ後ニ。始テ吾醫道ノ真面目ヲ見得スベキナリ。必實造實詣
ニ就テ修行ノ功ヲ加。藥物ノ功用ヲモ自驗セシウヘニテ。始テ變
ニ應シテ。意外ノ考按モ心頭ニ浮出テ。即効ヲ得ルコト有モノナ
リ。往歲麾下ノ士ニ。原田權兵衛トイヒシ人ノ母ハ。計相矢部氏ノ
姉ナリシガ。春末ヨリ下利ヲ患。其證夜ハ拘急腹痛シテ。通宵快寢
スルコト能ズ。晝ハ下利三五行。初發ヨリ秋末ニイタリテ。漢蘭ノ
醫士數輩ノ手ヲ歴。萬方ニスレドモ寸効ナシ。サレドモ食味ハ更

ニ平常ニ異ナラス。食スル毎ニ。二三盃。下飯ニハ。ヲリ々魚物ヲモ
用ルトイヘリ。予思ラク是ハ晝日喫トコロノ物が。腸胃中ニ敗壞
シヌルヲ以テ。下降セントスル機轉ニ從テ。拘急腹痛ヲ發スルハ。
腹氣疲憊シテ。消化ノカラ失タルヨリ。此證トナリタルガ。腸胃ニ
癖ツキタルモノナルベシ。然バ日々ニ喫馴タル粳米飯。其他ノ品
ヲモ一切コレヲ與ルコトナク。單赤小豆ヲ煮テ。飯ニ換テコレヲ
喫セ。塩ヲ斷シメバ。強ニ藥劑ヲ用ズシテ。必速ニ治スベシト。其旨
ヲ病者ニ説諭セシカバ。其意ヲ得テ。其夕ヨリ。單赤小豆ヲ喫ノ外
ハ。一切ニ用ルコトナカリシガ。其夜ハ痛ヤ、輕ク。翌日下利タ
ニ行。夜ニ至テ。拘急腹痛發ラザルヲ以テ。七ヶ月以來。始テ快寢セ
シトイフ。然ルニ夜明ケ則ニ登テ。大便通ゼズ。窘迫甚ク。燥屎一塊

ヲ打^ウジタルマ、ニテ。後重止ガタケレバ。下劑ニテモ服シテ可コトナラバ。之ヲ乞ントテ。原田氏自来テ之ヲ問シカバ。人參煉膏ノ方ヲ傳へ。速ニ製シテ之ヲ服サシム。其夕膏成テ。一次ニ三錢許ヲ服ス。翼朝ニ至テ大便快利シ。ソレヨリ日々ニ單赤小豆ヲ喫。人參煉膏三四錢ヲ服スルコト。二七日ニシテ全ク愈タリ。是傷寒論中ノ壞證ノ下利ノ。理中諸湯ノ効ナキ者ニ。赤石脂禹餘糧湯ヲ用タル軌轍ヲ一轉シ。湯藥ヲ祛。膏梁ノ物ヲ禁ジテ。唯粘稠ノ臍液ナクシテ。腸胃ヲ疎シ。小便ヲ利スル。赤小豆ヲ煮テ喫シメタルニ。下利果シテ止テ。大便ノ燥結スルヲ聽テ。津液ヲ催促スル。人參一味ノ煎汁ヲ煉熬シテ多ク服サシメタルマデニテ。一七ノ下劑ヲ用ズシテ。日毎ニ大便ヲ快利セシメ。脚ニ微腫アリシモ漸ニ愈。半月許

ニシテ氣力平常ノ如クニナリシハ。機ニ臨タルトコロノ病按ニテ。如此事ハヲリヲリアルコトナリ。凡テ傷寒論ノ軌轍ニ據テモ。藥方ハ徒ニ株ヲ守ノミニテ。變ニ應ズルコトヲ知子バ。人ニ超タル効ハ成ガタシトイフハ此事ナリ。此婦人素鬱毒アリシトミエ。ソノ翼年ノ春。頭瘡ヲ大ニ發シ。愈テ後身體以前ヨリ健ニナリテ今ニ存在セリ。此一事ニテモ予ガ言ノ妄ナラザルヲ知ニ足ヌベシ。惣テ書ヲ讀事ヲ習ニモ。實際ニ用ナキコトハ為ザルノ愈レルニ加ズ。况ヤ醫事ヲヤ。ニテ。問。說ル、トコロ略領解セリ。サレド十五年ノ間ノ日數。纔ニ五千餘日ノ其三分ガ一トイフ。千四五百日ノ間ノ修行モ。壯年ノ時ノコトニテ。今ハ唯衣食ニ奔走シテ。讀書勤學ハ。昔ノ十分ガ

一ニモ及ズ。然ラバ今サラ悔テモ詮ナキコトナカラ。イガニ意
得テ。標準ハ立ベキコトゾ。凡テノ事ハ。少壯ノ時ニ學タルコトガ。年老テ純熟スルマ
答テ曰。凡テノ事ハ。少壯ノ時ニ學タルコトガ。年老テ純熟スルマ
デナレバ。今更改テ學ニモ及ズ。吾子一途ニ鑿道ノ真面目ヲ認得
ント欲スルナラバ。サシアタリ先俗情慮ヲ一掃センコトヲ務
ベシ。昔習鑿齒ガ。諸葛亮ヲ評セシ辭ニモ。夫水至平而邪者取法。鑑
至明而醜者忘怒。以其無私也トイヘリ。其心ダニ至平至明ナラン
ニハ。従前學トコロノ非ヲ去テ是ニ従コトモ。自ラ易カルベシ。予
ハ既ニ此鑿術ノ為ニ。名利ノ巷ヲ避。世ヲ遁出タル者ニシアレバ
身ハ市井ノ間ニ在トイヘドモ。心ハ山林ニ栖遲スルガ如ク。唯拙
キヲ守テ深ク世ニ知レンコトヲ厭モノナルヲ。殊更ニ來訊タマ

フハ。是吾子ニ我意偏見ノ心少キガ故ナリ。能此心ヲ擴テ。愈益俗
情俗慮ヲ去盡シ。必シモ博識考證ノ學ヲ勤ントセズ。專ニ道義ヲ
講スル書ヲ取テ之ヲ讀。志操高キ古人ヲ友トシ。餘暇アラバ。風月
ニ情ヲ暢。山水ニ興ヲ催テ。財利名聞ヲ顧ルコトナク。毀譽榮辱ニ
心ヲ動スコトナクシテ。一歳餘モ試タマハ。必散悟シテ夜ノ明
ルガ如クニ。自得スルコトアルベキナリ。

